２８．嶋田　瑞生氏（株式会社 ATOMica　代表取締役 Co-CEO）

「市民や事業者に寄り添い、カメレオンのように合わせてくれるまち。」

嶋田　瑞生（しまだ　みずき）
仙台市出身。
東北大学で加齢経済学を学ぶ傍ら、大学 1 年次にゲーミフィケーションの分野で学生起業。会社経営を通じて様々な大人と出会い、共創が起きていく面白さに気づく。その後、都内メガベンチャーにエンジニアとして就職後、2019 年に（株）ATOMica を宮崎で創業。その後 2021 年に北九州に拠点開設後、創業 5 年で全国 30 弱の街で事業展開を進め、累計資金調達額は 10 億円を越える。

「北九州出身ではないからこそ見える良さ」

私は 22 歳まで仙台に住んでいて、その後、北九州市を含めて様々なまちで仕事をしてきました。そこで感じるのは、「自分の街の魅力は、意外と気付けない」ということです。

北九州市は、八幡製鉄所を起点に世界を見渡しても有数の都市として名を轟かせた歴史を持っています。４年前、そんな北九州市の歴史を知っていた私はワクワクしながら初めて北九州訪問をしたのですが、北九州市で会う人が皆、ご謙遜も含めつつやや自虐的に「あんまり名物も無いのよ」とよく仰っていました。

しかし、北九州で過ごす時間が増えるにつれて「実はこれが良くってね」と食・自然・産業など沢山の素晴らしいコンテンツを教えていただくなかで、どんどん魅力を知っていきました。

特に八幡製鐵所の歴史や九州工業大学の歴史など、話を聞くととても面白く、興味深いものです。松林を切り開いて、日本の近代化をけん引する製鐵所の建設により、産業が集積する一方で、公害も経験し、市民活動をきっかけに克服し、今や環境先進都市となったストーリーは非常に特異だと思います、これは SDGs の親和性も非常に高く、こうしたユニークなコンテンツ、歴史があるのに、それが世の中にまだまだ浸透していないのはとても惜しいと感じています。知れば知るほど面白い、それが北九州です。

「県庁所在地でない 100 万都市という面白さ」

私が育った仙台は、北九州市とほぼ同じ人口規模で東北最大の街です。一方、北九州も 100 万弱の人口があるにも関わらず、人口規模だけで測れば福岡市より少なく、九州最大の街ではありません。このギャップが個人的には面白いのです。近くに福岡市という良い好敵手がいることによって、100 万弱の都市規模という強さと、「追いつけ追い越せ」のハングリー精神を両立しています。

「市職員の『暑苦しさ』、外を受け入れる気質」

企業誘致や創業支援に対する行政、つまり市役所のコミットメント度合いの高さには驚いています。各所でこの言い回しをさせていただいていますが、良い意味で市の職員が「暑苦しい」のです。各地で市役所職員の方々とお仕事をさせていただきますが、全国トップクラスに熱量の高いと感じます。

また、このまちの人は、受け入れてくれる気質をすごく感じます。当社は、宮崎で創業した会社ですが、２拠点目を北九州に進出し大きな飛躍のきっかけを頂いたので、「宮崎生まれ、北九州育ちのスタートアップ」だと自認してい

ます。当社のステークホルダーも皆「北九州市に進出したのは良い判断だった」と言ってくれているのが、そのことを物語っています。

「程よく都会、程よく地方。都会と田舎をつなぐ橋渡しの街」

地域の魅力発信をするにあたり、「●●するなら北九州」の「●●」を何にするかが大切だと考えます。私は北九州には「都会に出るなら北九州」「地方に行くなら北九州」という一見矛盾した 2 つのキャッチコピーをつけることができると思っています。

例えば東京のベンチャー企業が東名阪以外のマーケットに進出をしようと考えたとき、いきなり人口数万人の街を手掛けてしまうとそのギャップへの調整が難しいことは想像に易いですが、100 万弱の人口を持ちながら県庁所在地ではないという面白い立ち位置の北九州であれば、都会の文脈をそこまで変えないままで地方都市への調整の練習ができると考えます。

逆に、九州エリアの会社が地場から更にマーケットを広げて大都市圏を狙っていこうとなったとき、最初から超レッドオーシャンの東京に勝負を挑んでしまうことはその調整難易度から大きなリスクがありますが、これまた絶妙な立ち位置の北九州であれば大都市でのビジネス実践経験を積めるものの東京都比べた際にはそこまでレッドオーシャンではないという美味しい所取りが可能であると考えます。

こうした両者にとって挑戦しやすく、そして熱狂的な支援者である市役所職員の皆さまが多い北九州はまさに挑戦の場としてとてもやりやすい土地だと思います。

「頼られるのが上手いカメレオン都市」

市外企業から見て、北九州市は相対的に使い勝手が良いまち、カメレオン的に合わせてくれるまちだと思います。

先述の通り北九州市は人口規模も大きく、食・自然・産業の様々な領域での表現力がとても高い街だと感じています。だからこそ、様々なオーダーに答えることのできるポテンシャルを持っていると考えています。良い意味で「うちのまちはこうでなければならない」というものがないのです。

だからこそ、スタートアップの立場からすれば、とても受け入れてもらいやすいと感じています。それが使い勝手の良さにもつながっているのです。

加えて、行政を挙げて企業側の要望に応えてくれます。だからといって、企業側の言いなりになっているわけでもありません。きっと頼られるのが上手なまちなのではないかと思います。プル（ひっぱる）型で引き出せば、色々出してくれるのがこの北九州市です。今後も二人三脚で、このまちを盛り上げて行ければと考えています。